グローバルヘルス政策研究センター設立記念国際会議

“Global Health at A Crossroads: How Can Research Shape the Future Policies?”

2017 年 3 月 2 日（木曜日）国立国際医療研究センター・国際医療協力局において、グローバルヘルス政策研究センター設立記念国際会議が開催されました。

これまでわが国は、長年にわたりユニバーサルヘルスカバレッジ（UHC）をはじめとする政策や、強靭で持続可能、かつ柔軟な医療保健システムの重要性を主導的に提唱してきました。その流れをうけて、2016 年 5 月に日本で開催された G7 伊勢志摩サミットでも、議長国を務めたわが国では保健・医療システムの改革に注力。とりわけ、既存のグローバルヘルスの枠組みを強化し、世界的流行が懸念される感染症や人類の生命を脅かす危険な公衆衛生上の緊急事態にもより迅速、かつ的確に対応できるシステムづくりの必要性が強調されました。

このようなグローバルヘルス分野におけるたゆまざる努力と貢献の成果の一つとしてグローバルヘルス政策研究センター（iGHP）は設立されました。

iGHP 開設記念会議では、世界各地より第一線で活躍するグローバルヘルスの専門家をパネリストにお迎えしました。移り行く時代とともに進化を遂げてきたグローバルヘルス政策、今日まで世界が達成してきた偉大なる業績、そして政策研究が担っている将来に向けての課題と挑戦の役割などについて、活発で建設的な議論が交わされました。

当日は、悪天候にも関わらず、会場は多くの参加者で埋め尽くされ、終始熱気に包まれました。春日 雅人国立国際医療研究センター理事長の主催者挨拶を皮切りに、塩崎 恭久厚生労働大臣（神田医政局長代読）及び横倉 義武日本医師会会長から設立への祝辞を賜りました。

続く基調講演では、タイ IHPF 代表の Dr.Suwit Wibulpolprasert が「Trends of Global Health Policies and the Roles of Research」、中国 香港大学医学部長 Gabriel M. Leung 教授が「A Common Secure Future from Emerging Infectious Diseases」、そして世界名門医学専門誌の一つ『The BMJ』の編集長である Dr.Kamran Abbasi より「The Value of Science and Research in Global Health Policy」という演題で、貴重な講演をしていただきました。それぞれの講演は、現代社会の抱える問題を考慮しつつ、我々が将来に向けて担っていくべき役割と義務について語られた、極めて説得力と叡智にあふれた内容でした。

会議後半は、渋谷 健司 iGHP センター長から「iGHP: そのビジョンと活動」と題し、iGHP の設立背景や活動概要をはじめ、グローバルヘルス政策において主要なシンクタンクとしての役割について講演いただきました。

パネルディスカッションでは、『The BMJ』の編集長 Dr.Kamran Abbasi による司会のもと、フロアとの質疑応答による熱い討論が展開されました。

会議は鎌田 光明 国際医療協力局長の挨拶で閉会。その後、iGHP のオフィスを会場にレセプションが催されました。

海外からのゲストスピーカーや参加者から多くの励ましや高い評価を頂くなど、今後の iGHP の展開を期待する声が相次いで上がりました。